



ホクレンにおける農福連携の取組み

令和8年3月5日
ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所
営農支援センター 営農支援推進課



農福連携の概要

農福連携の概念図 (営農支援推進課作成)



農業・福祉双方の持続可能性が向上

農福連携とは

【農林水産省HPより冒頭部分引用】

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。

農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。

近年、全国各地において、様々な形での取組が行われており、農福連携は確実に広がりを見せています。

皆さんも、私たちと一緒に、農福連携に取り組んでみませんか。

【農福連携等推進ビジョン（概要）より冒頭部分引用】

・農福連携は、農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組

・年々高齢化している農業現場での貴重な働き手となることや、障害者の生活の質の向上等が期待

農福連携は、様々な目的の下で取組が展開されており、これらが多様な効果を発揮されることが求められるところ

・持続的に実施されるには、農福連携に取り組む農業経営が経済活動として発展していくことが重要で、個々の取組が地域の農業、日本の農業・国土を支える力になることを期待

・農福連携を全国的に広く展開し、裾野を広げていくには「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」といった課題に対し、官民挙げて取組を推進していく必要

・また、ユニバーサルな取組として、高齢者、生活困窮者等の就労・社会参画支援や犯罪・非行をした者の立ち直り支援等、様々な分野にウイングを広げ、地域共生社会の実現を図ることが重要(SDGsにも通じるもの)

・農福連携等の推進については、引き続き、関係省庁等による連携を強化



ホクレン宮農支援センター における農福連携の推進

営農支援センターにおける農福連携の推進

・営農支援センター（営農支援推進課、各支所営農支援室）では、産地の労働力不足が喫緊の課題となる中、「外国人材の活用」「JA人材マッチングの支援」等を通じた労働力確保を図っており、その手法の一つとして「農福連携」に着目し、できることから少しずつ取り組んでまいりました。

【主な取り組み】

- ・農福連携技術支援者、北海道（農業経営課）、各総合振興局、各市町村、JA北海道中央会等と連携し、産地の労働力不足や農福連携に関する情報の収集
- ・セミナー・講習会・現場や農福連携技術支援者とのやりとりで得た知識・情報を労働力に悩むJA・生産者・農業法人に提供
- ・弊会情報誌「アグリポート」等を活用した農福連携の取り組みの情報発信
- ・産地の農福連携に関する情報（興味がある、研修の要望、どうやっていいかわからない等）を各総合振興局や市町村へ伝達（農業と福祉のマッチングの橋渡し）
- ・ホクレン自ら（ホクレン施設）による農福連携の取り組み推進・協議（取り組み事例の蓄積、JAへの情報提供、本会内部への情報共有・啓発）



【アグリポート別冊「農福連携」ガイドブック】
（2020年2月発刊）※Webはこちら↓
https://agriport.jp/category_book/ap23-sp/



【アグリポートVOL.57よりJAきたそらちの取り組み】（2025年10月発刊）※Webはこちら↓
<https://agriport.jp/topics/ap-25172/>

次スライドより、ホクレン各施設における農福連携の取り組みを紹介いたします



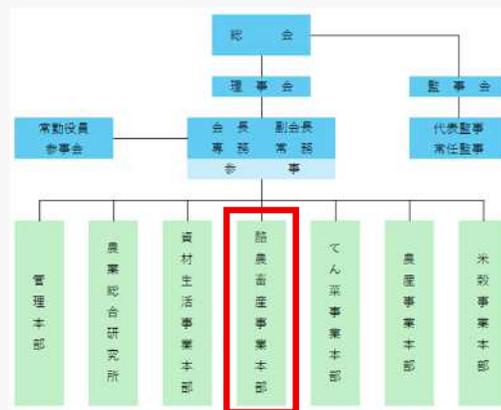
ホクレン各施設における 農福連携の取り組み

【令和4年度～】 ホクレン小樽種子工場



ホクレン小樽種子工場（施設概要）

種と環境に優しい工場から
高品質種子をお届けします。



※酪農畜産事業本部 畜産生産部の直轄施設

北海道小樽市手宮1丁目1-1

北海道の酪農畜産農家がこれからも安全安心な牛乳や肉を生産するためには、牧草やとうもろこしなどの自給飼料の増産が必要です。

この草地を守るためにホクレンでは、訓子府実証農場を中心に道内10数か所で様々な試験を通じて良質自給飼料の優位性を実証するとともに、関係機関と連携して栽培や利用技術の確立と普及に努めています。

こうしてできた種子を大切に保管し、精選・供給するのが私たち種子工場の役割です。

<規模・能力>

| | | |
|------|--------|---------|
| 規模 | 敷地面積 | 15,472㎡ |
| | 工場本館 | 2,872㎡ |
| | 付属倉庫 | 3,240㎡ |
| 機械装置 | 計量包装設備 | 4ライン |
| | 種子精選機 | 5台 |
| | 発芽試験器 | 12台 |
| 加工実績 | 牧草 | 400トン |
| | とうもろこし | 800トン |
| | 緑肥作物他 | 1,700トン |

種子工場の仕事

- 1 「原料の保管管理」
- 2 「品質検査」
- 3 「精選加工」
- 4 「製品の保管・出荷」



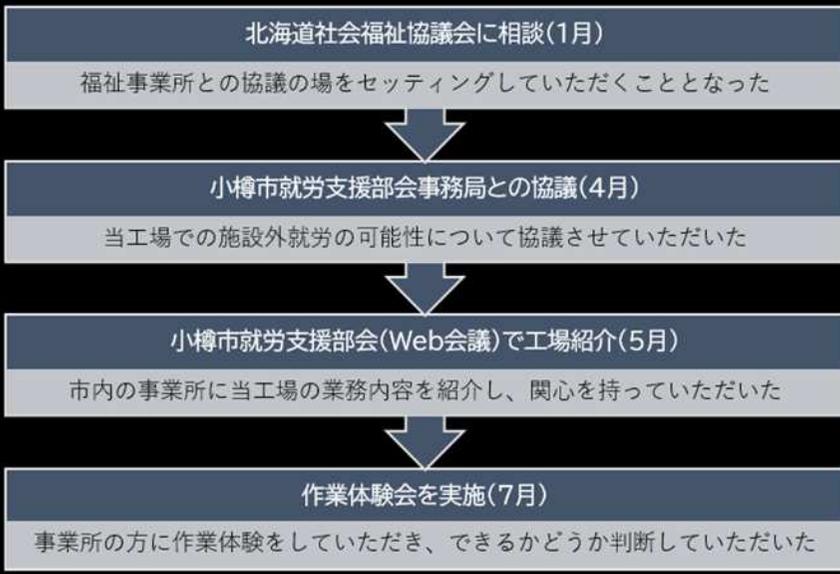
ホクレン小樽種子工場（農福連携の取り組み経過）

<課題>

- (1) 業務量の年間格差（繁忙期は人員不足、閑散期は過剰）、通年雇用できる人数にも限りあり。
- (2) 繁忙期の外部委託数量が増加
⇒福祉事業所による施設外就労の可能性を探る

<取り組みの経緯>

福祉事業所とのマッチングまでの経過



<作業体験会の様子>

業務委託開始までの流れと結果

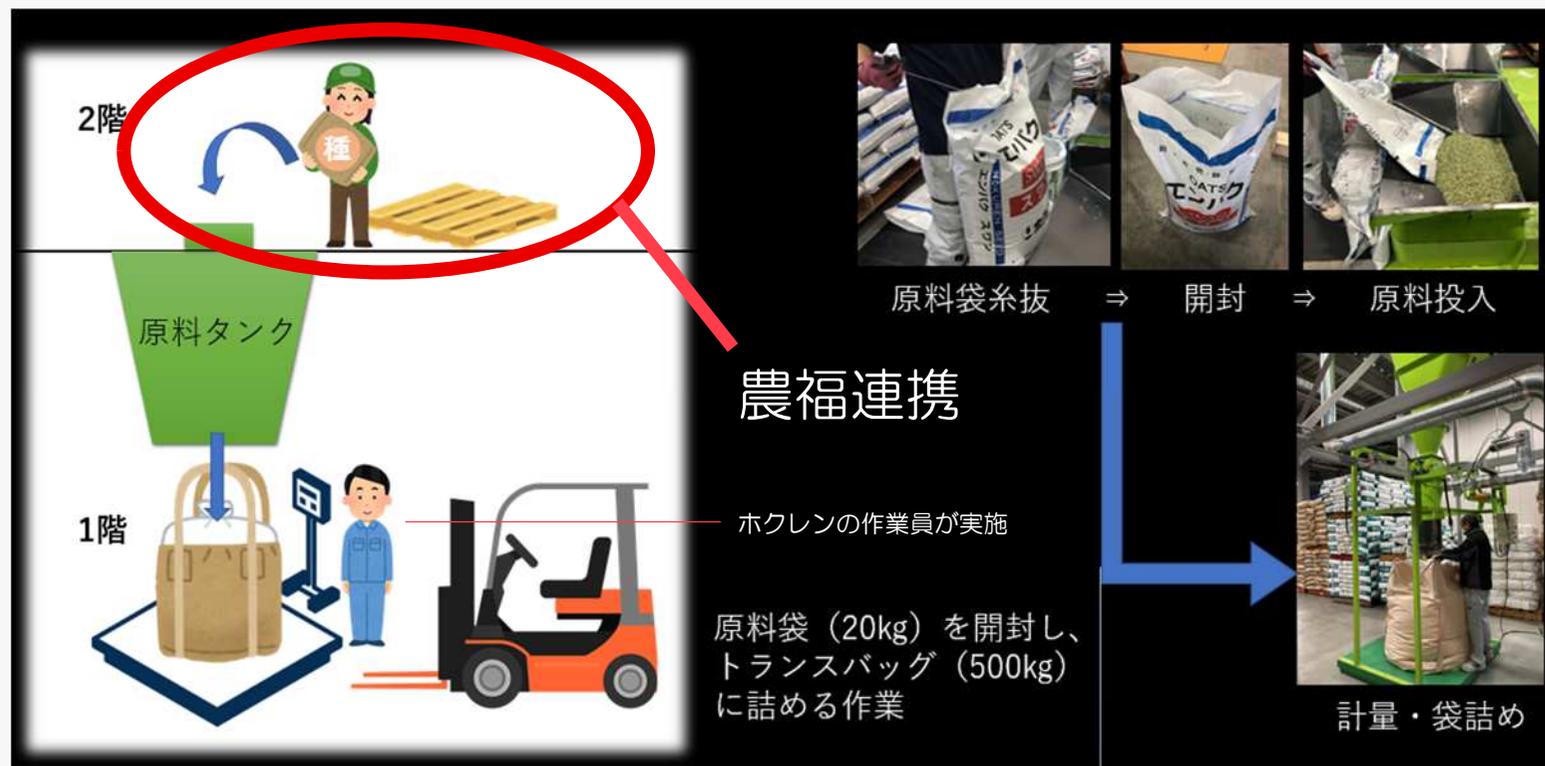


ホクレン小樽種子工場（作業内容）

作業内容：20kg種子袋の解袋、原料投入

※付帯作業：空袋の集積、パレット移動、作業後の清掃

- 委託期間：12月上旬～翌1月末
- 作業時間：9:45～12:00、13:00～15:00
- 委託数量：約320t（500kgパック640本）
20kg袋換算16,000袋
※目標数量＝24～25本/日



ホクレン小樽種子工場（効果・課題）

<作業結果>

（1）初日の作業スピードをみて1日の目標本数を24～25本から36本へ上方修正し、早く到達した場合はその日の作業終了としました。

（2）作業は職員1名・利用者6名を基本（ほぼ固定メンバー）とし、2人1組で連携をとりながら作業できました。

（3）投入原料の異変（変色・固まり）等の気づきもあり、すぐに報告をいただきました。

（4）作業の習熟が速く、当初の目標（26日間）を上回る19日間で初年度の取り組みを完了しました。

<課題>

取り組み（依頼できる作業）の拡大検討

※令和7年度は品種の需要増に伴い追加加工が発生

→令和8年度は夏の短期（約1週間）委託の検討

（福祉事業所の他社からの請負状況との兼ね合いも踏まえ協議）

■福祉事業所の声

1日の目標数量を決めて取り組み、やり遂げた後の達成感があった。

冬場の仕事の1つとして考えられるようになった。

腕の筋力や体力がつき、除雪などの仕事が楽にできるようになった。

研修や打合せの時間があり、万全な体制で作業に入ることができた。

来年もお願いしますと言われた。

■小樽種子工場の声

期待通りに作業をしていただき、工場の新たな戦力として計算できるようになった。

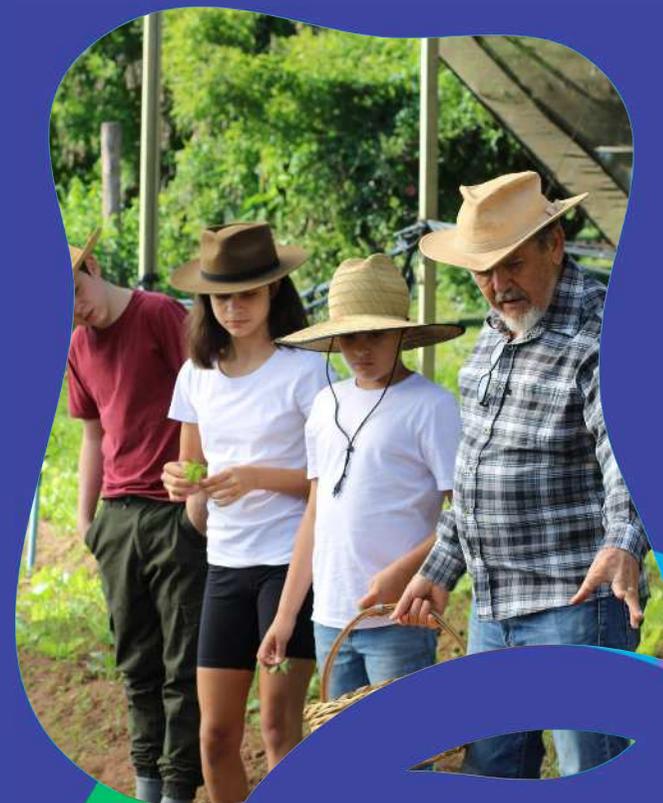
期間限定の仕事でも受けていただいた。

体力系の仕事を得意とする事業所と巡り合えた。

加工コストを大幅に削減できた。

工場現場からぜひ来年も作業をお願いしたいという声があった。

【令和5年度～】 ホクレン旭川鶏卵流通センター



ホクレン旭川鶏卵流通センター（施設概要）

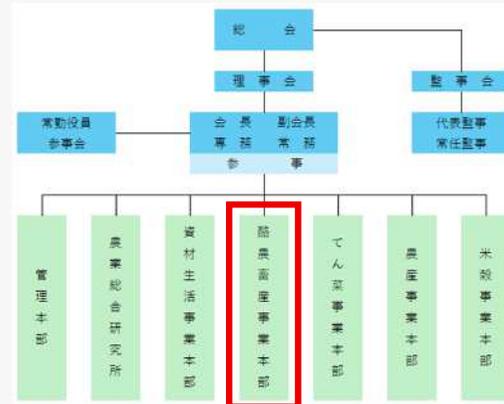


北海道旭川市流通団地1条2丁目

たまごの生産・供給における道北の拠点として、年間約8千万個のたまごを取り扱っています。安全・安心なたまごを届けるために、第三者認証機関にHACCPシステムを導入しており、各作業はHACCPシステムによって詳細に管理されています。

農場から産まれた「原卵」はあらゆる検査を経て「汚卵」「ヒビ卵」「血卵」が取り除かれます。すべての検査に合格した卵は7種のサイズに選別されパッケージに収められ、賞味期限等のシールが貼られて「たまご」（製品）として完成します。センターに一時保管後、上川・留萌・宗谷・中北空知・オホーツク・一部道央方面に運ばれます。

- ※日本国内の（株）ナベル社の自動鶏卵洗卵選別機を設置。処理能力：35,000卵／時間×2台
- ※卵殻表面は、次亜塩素酸ソーダによるシャワー殺菌。
- ※ヒビ卵の検査は、目視（2ヶ所）、目に見えない部分は音感機械装置により除去。
- ※汚卵の検査は、目視（2ヶ所）、自動汚卵検査装置で除去。
- ※血卵の検査は、自動血卵検査装置で除去。



※酪農畜産事業本部 畜産生産部の直轄施設



ホクレン旭川鶏卵流通センター (農福連携の取り組み経過)

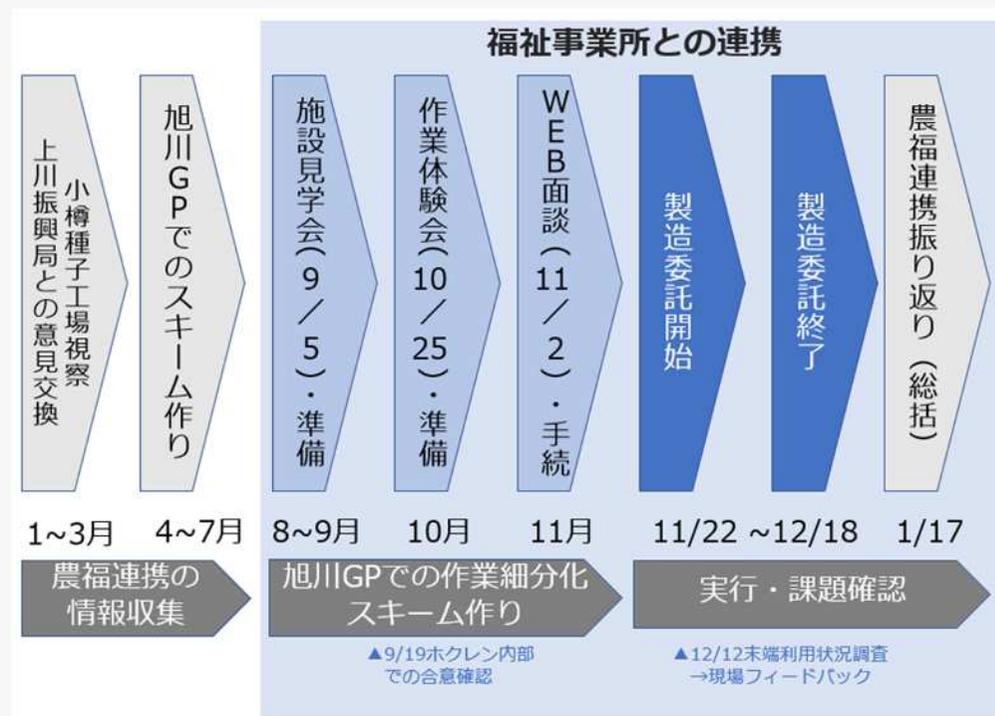
<課題>

- (1) 鶏卵事業の環境（北海道）
原価高騰（原料卵・資材）、鳥インフル、人口減少、製造コスト高（エネルギー・人件費）
⇒持続可能な鶏卵事業を構築したい
- (2) 業務改善手法
⇒作業の細分化とスキーム作りで、作業効率化と稼働率の向上が必要

<取り組みの経緯>

- (1) 小樽種子工場における農福連携の取り組みを見て、課題解決に繋がる可能性を感じ、取り組みを開始。
- (2) 「農福連携の情報収集」⇒「現行作業の細分化・スキーム作り」⇒「実行・課題確認」の流れ。詳細は左表を参照。

<取り組み開始・終了の流れ（令和5年）>



ホクレン旭川鶏卵流通センター（作業内容）①

作業内容：贈答用鶏卵商品の箱詰め

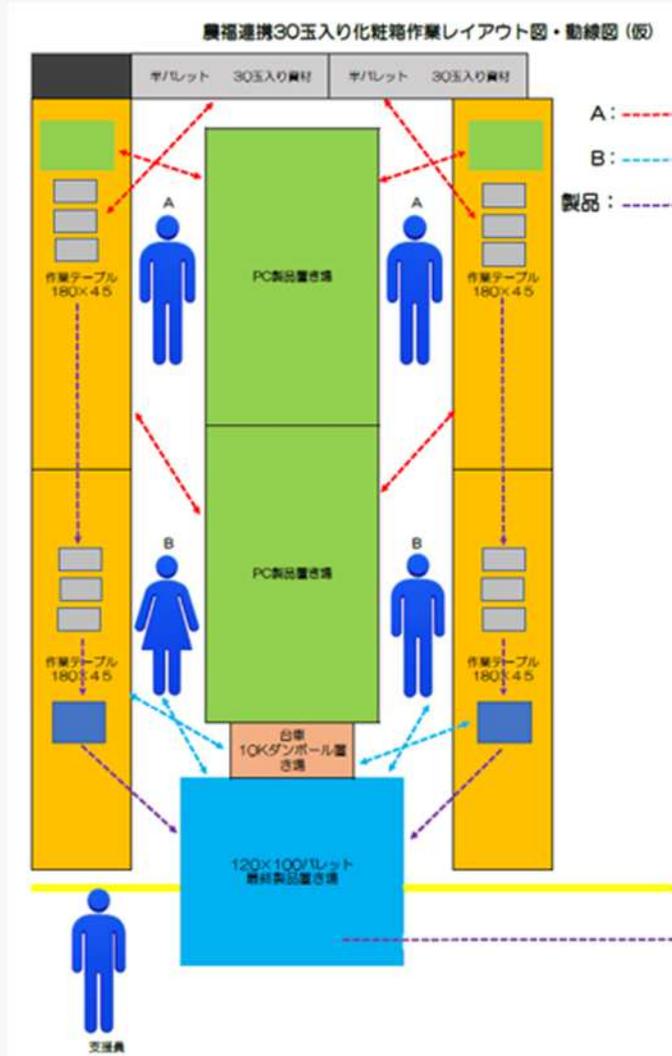
（1）作業概要

化粧箱・段ボールの組立⇒化粧箱へのパック詰め（3パック）⇒化粧箱のフタ閉じ
⇒パック詰めされた化粧箱の段ボールへの詰め（1箱に4つ）⇒段ボールの上面閉じ・パレット乗せ

（2）作業人数・時間

支援員1名＋利用者4名体制（3時間程度／日）

ホクレン旭川鶏卵流通センター（作業内容）②



30玉入り化粧箱 作業マニュアル①

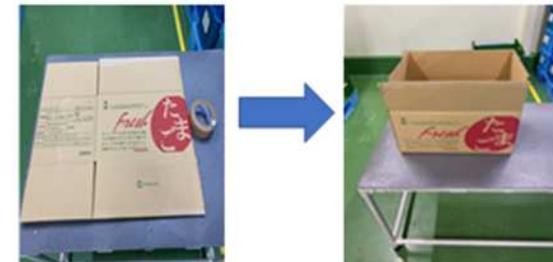
【1】加工指図書等研査書を参照し作業を行ってください。（詳細は別紙にてご説明いたします。）



【2】30玉入り化粧箱を組み立てます。



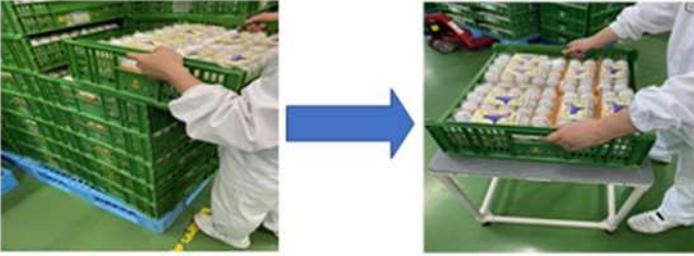
【3】10Kダンボールをクラフトテープを使用し組み立てる。



ホクレン旭川鶏卵流通センター（作業内容）③

30玉入り化粧箱 作業マニュアル ②

【4】バック詰めされたコンテナを作業台に乗せる。Ⓢ作業台はイメージです



【5】コンテナ詰めされたバックを化粧箱に3バック詰めます。



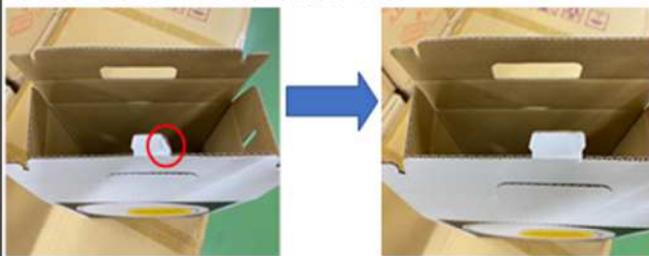
※化粧箱にバック詰めしてください。

【6】化粧箱のフタを閉じます。
ポイント：両手の親指を使い差込口にツメを押し込むと閉じやすいです。



30玉入り化粧箱 作業マニュアル ③

【7】化粧箱のフタを開ける(注意)
上手く開けれなかった場合はツメが曲がっている可能性があります。その場合はツメを真っすぐにしてから、再度フタを開けてください。



【8】バック詰めされた化粧箱を10Kタンホールに詰めます。基本：1箱に4箱詰め必ず
※指守により1箱に詰められる数量が変わる場合がございます。



【9】化粧箱を詰めた10Kタンホールの上面を開いてパレットに乗せる。
指定した数量を数え終わったら乗取検査員に報告し、製品が乗ったパレットを移動してもらいます。



ホクレン旭川鶏卵流通センター (効果・その後の動向)

<効果>

- (1) 直近3か月の残業時間が約25%減。
- (2) 障がい者が働きやすいよう作業体制を見直したことで、以下の効果がありました。

①化粧箱の品目を1品目に集約したことで、作業体系の切替回数が減り稼働率が向上【65%⇒75%、稼働率向上により生まれた改善時間：21時間/月】

②発注の早期取りまとめ（締切前倒し）による計画的な製造、経理入力の迅速化

<その後の動向>

- (1) 令和7年度は鶏インフルエンザの影響により贈答用鶏卵商品が販売休止となったため、取り組みを休止。
- (2) 障がい者2名を直接雇用。
※工場内の製品の積み込み・移動、資材投入他。
※お二人とも仕事に前向きで真面目に取り組む姿勢が素晴らしいとのこと。

■福祉事業所・利用者の声

事前に企画した説明会や体験会により実習参加者がスムーズに作業をすることができた。

作業に慣れてくると予定数以上の数を製造できるようになった。手の空いた人が他の人をカバーするなど協力しながら円滑に作業をすることができた。

休憩室の暖房やお湯ポットなど昼前に温めてもらい、実習参加者が喜んでいました。ロッカーで貴重品管理できました。

■旭川鶏卵流通センターの声

まずは農福連携技術支援者の方と話していく中で、委託できる作業の範囲が意外と広いと感じることができた。

体験会や面談を通じて利用者のレベル感がわかった。

作業細分化や危険個所の可視化により現場間の会話が増え、作業マニュアルを見直す良いきっかけになった。

挨拶や休憩時の会話ではどのような障がいがあるのかわからないくらいだった。

時期的に集中した業務の分散ができ、従業員の時間外作業が減少した。

【令和6年度～】 ホクレン恵庭馬鈴しょ育種農場・ ホクレン長沼研究農場



ホクレン恵庭馬鈴しょ育種農場（施設概要）



北海道恵庭市下島松829番地

馬鈴しょの品種開発を専門に行う研究農場です。
約8haの圃場を有し、3年輪作により馬鈴しょを作付しています。

※品目が1つで指示系統がシンプルです。

馬鈴しょの交配や得られた種子のポット栽培、圃場での栽培試験など、研究農場ならではの独特な作業があります。

※専門的で複雑な作業が多く、次々と内容が変わります。

ホクレン長沼研究農場（施設概要）



北海道夕張郡長沼町東9線南2番地

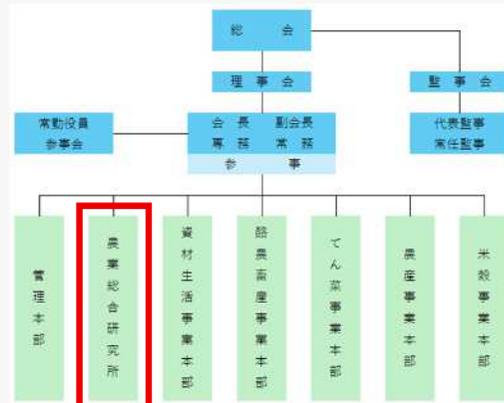
多品目（春播き小麦・人参・玉ねぎ・南瓜・ブロッコリー・トマト等）の品種開発や栽培技術の開発、新しい肥料や農薬の効果確認等、様々な試験を行う研究農場です。
約21haの圃場やハウスを有します。

※品目が多岐に渡り指示系統がそれぞれ分かれるため複雑です。

天候や生育状況によって作業内容が頻繁に変更となります。晴れても雨でも同じ作物の作業となることは少なく、これにより指示者（担当者）が変わります。また、一つの作業が短く終了し、一日にいくつもの作業を掛け持ちすることが多いです。

特性確認のための調査（草丈を測って書き留めたり、数や重さを調査したり）や、調査の精度を確保するための環境整備（除草や草姿の維持等）のように、研究農場ならではの独特な作業があります。

※専門的で複雑・精密な作業が多く、次々と内容が変わります。



※いずれも農業総合研究所の直轄施設

恵庭馬鈴しょ育種農場・長沼研究農場（農福連携の取り組み経過）

<課題>

- （1）ホクレンにおける農福連携の推進部門である「農総研」の施設で農福連携に取り組めないか！
- （2）労働力確保のチャンネルを獲得し、施設の安定運営に繋がりたい！
- （3）将来的には直接雇用による障がい者の雇用率向上へも寄与したい！

⇒農福連携の導入に向けた機運の高まり

<取り組みの経緯>

- （1）福祉事業所の利用者が札幌市内の野菜パッキング工場で作業しているところを視察しました。
- （2）大変手際よく、やや煩雑と思われる作業も適格にこなしており、工場の生産性向上に寄与している状況をみて農福連携の大きな可能性を感じました。
- （3）農総研の運営施設で利用者の方が作業可能なものがないか検討した結果、恵庭馬鈴しょ育種農場で実際に作業を体験していただくこととなりました。
- （4）恵庭馬鈴しょ育種農場における農福連携の取り組みを開始。問題なく取り組むことができたため、次のステップとして品目が多岐に渡り緻密な作業が多い長沼研究農場における農福連携の取り組みを検討しました。
- （5）長沼研究農場における農福連携の取り組みを開始。まず「さつまいも畝間の除草」「かぼちゃ茎のピン打ち」に取り組み、問題なく取り組むことができたため、「試験用小麦の穂からの採種」も追加しました。

ホクレン恵庭馬鈴しょ育種農場（作業内容）

作業内容：苗を鉢上げするためのポットづくり

（1）作業概要

専用の培養土をポットの7分目程度まで詰める（5,000ポット／日）。



（2）作業人数・時間

支援員1名＋利用者3～6名体制（4時間程度／日）

【令和6年度作業実績】

・6月のトライアルの後、9月から実契約に基づく取り組みを開始。

・9～11月に計16日間、のべ57名の利用者が参加。

・いも拾い（収穫残の馬鈴しょを圃場で広いフレコンに集める作業）や、鉢上げしたポットで生育不良で廃棄するものや栽培が終了したものを片付ける作業等を行った。

ホクレン長沼研究農場（作業内容）

作業内容①：さつまいも畝間の除草

畝間の除草作業
【園芸作物開発課 中村課長から生活支援員・施設利用者への説明】



※除草作業については、さつまいもの茎を踏まない、マルチを破らないなどの注意点があつたが、特に問題なく作業を行つていた。

※当日は、気温も上がっており熱中症に気をつけなければならない状況下であつた。水分補給、休憩など、配慮が必要であつたが支援員の方が適時声掛けし、水分補給休憩を取つていた。

【生活支援員・施設利用者の作業状況】



ホクレン長沼研究農場（作業内容）

作業内容②：かぼちゃ茎のピン打ち

成長点付近にピン打ち



苗を直進に誘引する。



【作業説明及び生活支援員・施設利用者の作業状況】



※かぼちゃの生育が旺盛で1週間前に打ったピンを葉の中から探し、1本ずつピン打ちする雑草除去より難易度の高い作業であったが問題なく作業を行っていた。かぼちゃの棘でビニール手袋が破けてしまうので、作業用手袋が必要となる

ホクレン長沼研究農場（作業内容）

作業内容③：試験用小麦の穂からの採種

作業説明→



①試験用小麦穂から



②器具を使用し、種子を分離させ



③種子の皮などをブローできれいにし



④採種した種子を番号整理されている袋に入れる



ホクレン長沼研究農場（作業内容）

【令和7年度作業実績】

実施期間：令和7年5月16日～10月31日

作業日：毎週金曜日10時～15時（昼休み1時間含む）（のべ19日間実施）

作業体制：5～7名＋就業指導員1名（就労継続支援A型施設）

実施作業：播種、定植、サンプル採取、除草、使用器具の洗浄等 ※月1回振り返りを事業所と実施

<作業手順書の作成について>

（1）作業の標準化と品質の安定

ベテランの知識や技術を標準化し、誰もが同じような作業を行うことが可能になることで、作業者による「やり方」や「出来上がり」のばらつきをなくし、常に一定の品質を保つことにつながる。

（2）業務効率の向上

無駄な試行錯誤を排除し作業時間を短縮できるため、作業に必要な準備物や手順が明確になり、スムーズに作業を進められる。

（3）事故やミスの防止

安全上の注意点やトラブル対応策を明確にすることで、事故のリスクを低減させる。手順を細かく定めることで、ヒューマンエラーによるミスを減らします。

※作業手順書の作成例（人参播種）



- ※作成ポイント「できるだけ、わかりやすく、箇条書きに」
- 「目的に合ったわかりやすい写真を使う」
- 「注意点を強調し、明確に伝え、事故やミスの防止を図る」

ホクレン恵庭馬鈴しょ育種農場・ホクレン長沼研究農場（効果・課題）

<効果>

施設利用者は作業状況においては健常者と遜色ない状態だった。

施設利用者は工場内等の就労だと騒音や閉鎖空間で体調を崩すこともあるらしいが、当施設での作業は野外で解放感があるため、施設利用者からも好評とのことだった。

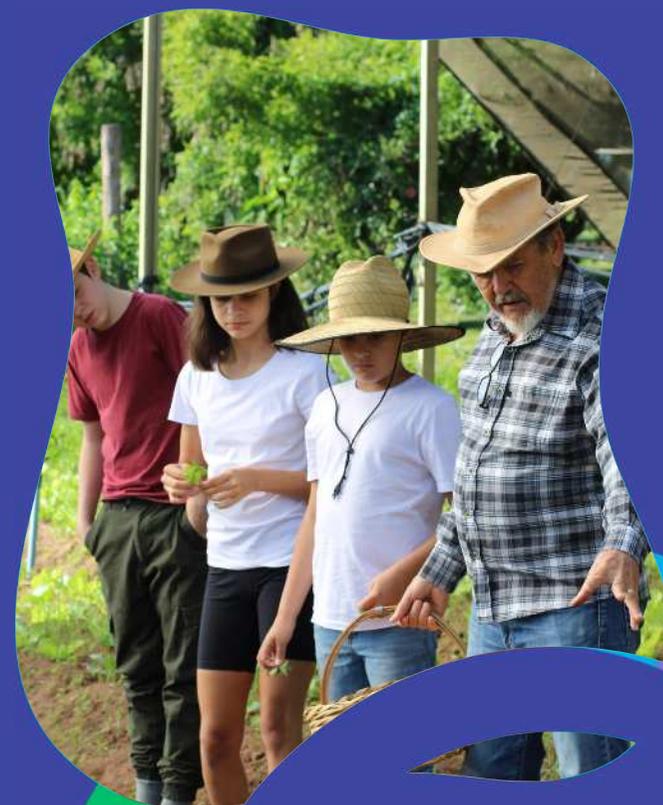
集中力が比較的必要な作業だが、丁寧に作業を行っていた。当初は若干スピード感に欠ける印象もあったが、作業に慣れるにつれて改善されていた。

<留意事項>

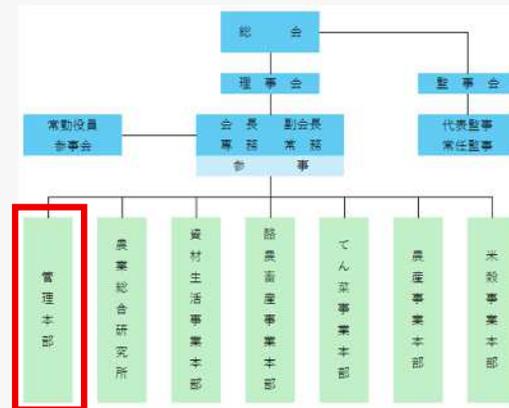
熱中症を警戒する気温の時は水分補給や休憩をこまめにする必要があった。

施設利用者は非常に真剣に作業に取り組むので、指導員を通して無理をしないよう声掛けする必要性を感じた。

【令和7年度～】
ホクレン 食と農のふれあい
ファーム くるるの杜



ホクレン 食と農のふれあいファーム くるるの杜 (施設概要)



※管理本部 経営企画部の直轄施設

北海道北広島市大曲377-1

消費者と生産者を結ぶこの施設では、豊かに広がる農村空間の中に、北海道農業の生産現場を再現し、体感してもらうことで、楽しみながら農業への理解を深めてもらうことをめざしています。

この空間では、農場や調理加工をする体験施設、北海道産農畜産物を販売する直売所や農村レストラン、杜カフェなどがあります。

農場ではおなじみの野菜が生育しており、収穫から食卓にのぼるまでを一体的に体験することで「食」と「農」のつながりを実感していただける施設となっております。

- 体験農場（10,000㎡、ハウス4棟）
- 調理体験施設（2カ所、床面積100㎡、111㎡）
- 農畜産物直売所（売場面積380㎡）
- 農村レストラン（210席）



ホクレン 食と農のふれあいファーム くるるの杜 (農福連携の取り組み経過)

<課題>

- (1) 農村レストラン横の花壇の管理不足
(レストラン窓からの景観を損なっている)
⇒花壇の管理人員を確保したい
- (2) 作業性向上によるコスト削減
⇒新たな雇用形態により作業手順を見直しコスト削減につなげたい

<取り組みの経緯>

- (1) 農福連携コーディネーター・営農支援推進課との打合せにおいて農福連携の可能性のある作業をピックアップ。
- (2) 福祉事業所(3事業所)を交えた打合せにおいて、具体的な作業分担等を設定



花壇

※農村レストランの窓から一面に広がる
抜群のロケーションにあります。

ホクレン 食と農のふれあいファーム くるるの杜（作業内容）

①花苗の定植作業

※サルビア・ブルーサルビア・マリーゴールド・アフリカンマリーゴールド・ビンカ（日日草）

②定植後の花苗への水やり・草取り作業

③その他付帯作業（ラベンダーの移植作業等）

(1) 委託期間

令和7年5月23日～10月31日

(2) 作業概要

- 福祉事業所へ説明、作業内容のレクチャー
- 3事業所合同の作業となるため、区画を分けて作業分担。
(A事業所は画像左側の区画、他事業所は画面右側の区画)



ホクレン 食と農のふれあいファーム くるるの杜（効果・課題）

<作業結果>

- (1) 利用者の皆さんにはていねいに作業していただき、花苗の定植は問題なく完了しました。その後の管理も行き届いており、施設を利用いただいたお客様からの評価も上々でした。
- (2) くるるの杜として、これまで不十分だった花壇の整備に尽力いただき本当に助かったとのことでした。
- (3) 花壇の苗植え、管理状況を確認した体験農場の担当者が、体験農場のアスパラ区画と果樹園の草取りを依頼したところ、非常にきれいに管理していただき助かった。ぜひ来期もお願いしたいとのことでした。
- (4) 各福祉事業所からも、働きやすい環境下で利用者が充実感を持って働くことができとても良かった、農福連携でネックになりがちな「トイレ・休憩場所・駐車場」が完備していたとの感想でした。

<課題>

- (1) 猛暑による影響： 作業時間短縮（週2回→週1回）、熱中症リスク増大。
利用者の体調管理が難しく、国の基準や警報に応じて休憩延長や作業中止を実施。
- (2) 現場対応： 駐車場の位置が遠く（一番奥）、休憩時の移動負担が課題。
⇒来年継続の場合は駐車場の真ん中ぐらいに駐車してもらいたい。（くるる）
- (3) 認識共有： どこまで作業してよいか不明確な時があった。 ※暑さで苗が枯れた時に植え替えすべきか？
草刈りの際に残すべき花、刈るべき花は？
⇒必要なことは伝えたと思っていたが気づかなかった。今後留意する。（くるる）

【花苗の定植～完了の様子】

マリーゴールド



ビンカ（日日草）



⇒令和8年度も取り組みを
継続する方向（くるるの杜・
福祉事業所で双方一致）



まとめ

ホクレン施設における農福連携の導入モデル（考察）

<導入にあたっての課題>

- 導入のニーズ、導入によるメリットがあるか？
- 障がい者が取り組めそうな作業があるか？（又は障がい者が取り組める作業内容に改善できそうか？）
※作業の難易度・複雑性、時期、頻度、必要人数、できれば「施設内就労」が可能な作業がある etc
- 障がい者が作業をしやすい環境が整っているか？
- 既存の雇用体系との兼ね合いは？
※既に派遣雇用しており、そこに福祉事業所の請負も加えると雇用体系が複雑になる etc
- 契約条件（賃金等）

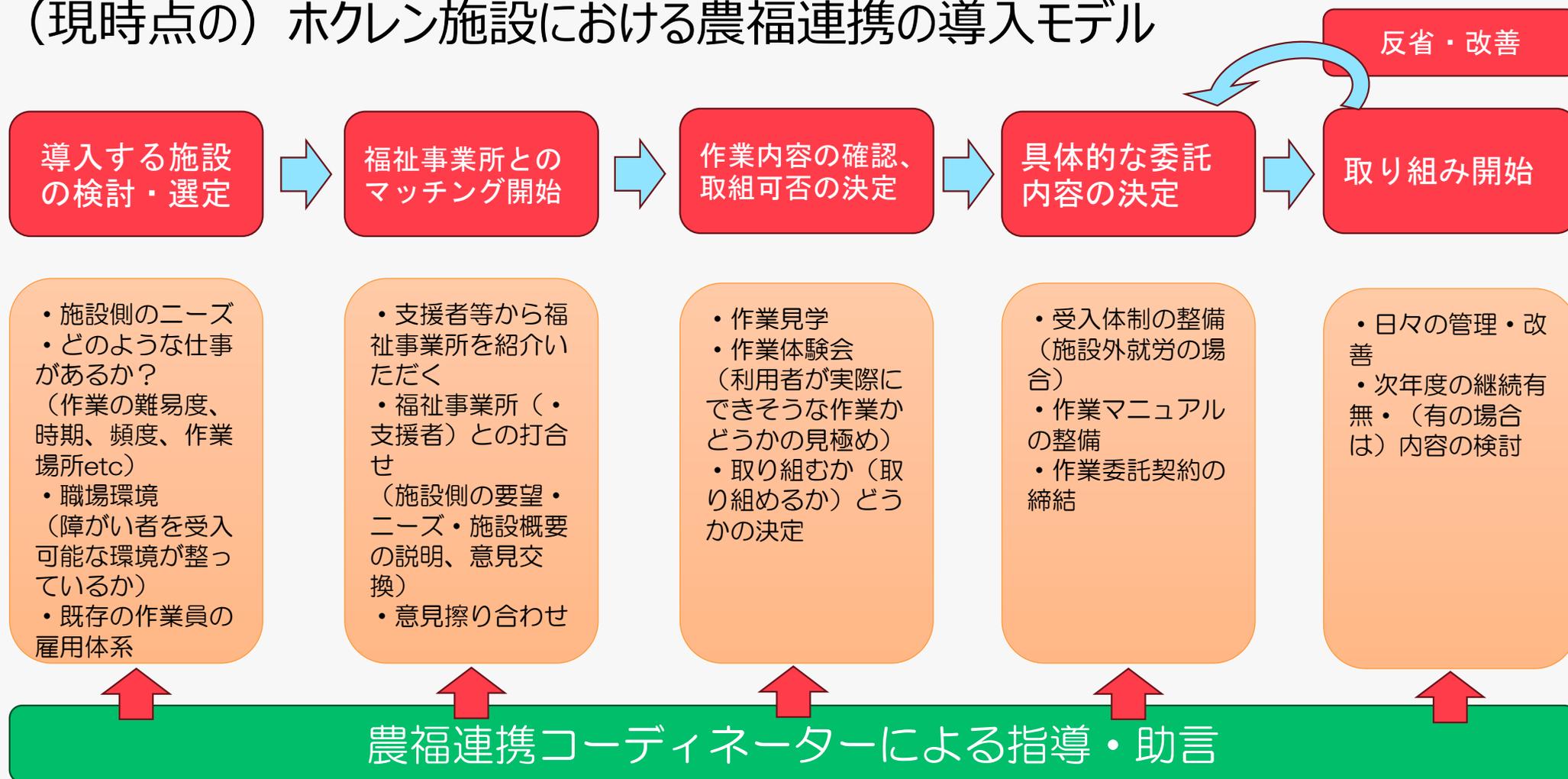
<ホクレン施設における農福連携の導入モデル>

現時点で次スライドのとおり

<その他>

次のステップとして、産地（JA・生産者・生産法人）における農福連携の取り組み推進についても、本会として貢献できるよう農福連携技術支援者の指導・助言を仰ぎながら体制を構築してまいります。

(現時点の) ホクレン施設における農福連携の導入モデル





ご清聴ありがとうございました